

## 130 宮清めの祭りにおいて

ヨハネによる福音書 10 : 22~39 (ユダヤ人、イエスを拒絶する)

22 そのころ、エルサレムで神殿奉献記念祭が行われた。(時は霊的な)冬であった。

→神殿奉献記念祭 (宮きよめの祭り、宮清めの祭り、ハヌカ祭、ハヌカーの祭り、光の祭り)

聖書中「神殿奉献記念祭」の記述は、ヨハネによる福音書 10 : 22 のみで、ハヌカーはヘブライ語で「奉献、献納」という意味である。

→ダニエル書 12 : 11~12 に「日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。待ち望んで千三百三十五日に至る者は、まことに幸いである。」※1 と記されている。この預言は歴史的事実を背景にするもので、セレウコス朝シリアの統治者アンティオコス 4 世・エピファネス※2 が、BC167 年キスレーヴの月の 15 日に、ギリシア神ゼウスの祭壇を神殿に設置したことを指している。しかし、この祭壇は、BC164 年キスレーヴの月の 25 日に、ユダヤ人マカベア一族のユダス=マカバイオス (ユダ=マカベウス、マカベウスのユダ) により取り除かれ、神殿は再奉献された。この出来事は「ハヌカー」「宮きよめ」と呼ばれ、今でも神殿祭として祝われている。マタイによる福音書 24 : 15 にも、「預言者ダニエルの言った憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たなら——読者は悟れ——、」と記されている。これは終わりの日に起こる反キリストによる大患難のことを預言しているが、この出来事の原型が「ハヌカの祭り」の背景にある。

※1 : 数字は、アンティオコス 4 世エピファネスによる迫害が続く間、あるいは将来のある時期を指す。

※2 : アンティオコス 4 世エピファネス (BC215/212 年?~BC164/163 年?) は、BC2 世紀のセレウコス朝 (BC312 年~BC63 年頃) シリアの王 (在位 : BC175 年~BC163 年)。プトレマイオス朝を圧倒したことでユダヤを支配下に治めたが、やがてマカバイ戦争 (BC167 年に勃発したセレウコス朝に対するユダヤ人の反乱とそれに続く戦争) を引き起こした。

### 太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月 (ヘブライ語)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Siwan, Sivan	タムズ Tammuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シュバン Marcheshvan	キスレーヴ Kislev, Kislev	テベット T'ebheth	シュバット Shebat	アダール Adhar, Adar	
バビロニアの月名 0 : カナンの古称	ニサン (アピブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	アブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (フ)	キスレウ	テベト	シェバト	アダール	
主な行事	七週間		七週祭 (シャブオット) 新月    五旬祭 (ペンテコステ Pentecoste ギリシア語)				1 : 新年 10 : 大贖罪日 15~21 : 仮祭 (スコット)		25 : 宮清めの祭 (ハヌカの祭り) (25日~8日間)				
	14~21 過越祭 (ペサハ) 満月 除穢祭		※ユダヤの三大祭 : 過越祭、七週祭、仮祭				①イエス・キリストが過越祭の時に、子羊として十字架にかけられ、殺された。 ②三日目によみがえられた。→復活祭						

- ・ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式 (太陰太陽暦) です。
- ・ユダヤ暦は、一日が日没 (夕方) に始まり、次の日の日没 (夕方) に終わります。それは、聖書の創造の記事に「夕べがあり、朝があった」 (創世記 1 : 5 他) と記されているからです。
- ・イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
- ・ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年 (西暦よりも3760年長い) となる。

23 イエスは、神殿の境内でソロモンの回廊を歩いておられた。

24 すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで言った。

「いつまで、わたしたちに気 (→魂) をもませるのか。  
もしメシアなら、はっきりそう言いなさい (→文語訳 : 何時まで我らの心を感しむるか、汝キリストならば明白 [あらは] に告げよ)。」

→ここでのユダヤ人たちは、最高法院に属する議員で、

祭司職に就き、ファリサイ派や他の指導者たちに影響力を持つユダヤ人教師でもあった。

→気をも (揉) む : やきもき (物事がどうなるかといらだつさま) する。いろいろと心配して悩む。

→メシアはヘブライ語で「マシアハ」で油注がれた者の意味で、その者が特別に選ばれた者であることを示し、神の力がその人に臨むしるしでもある。



参考写真: マグダラのマリアの追憶 ©H.Taniguchi

25 イエスは答えられた。

「わたしは言った（→話した）が、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。

26❶しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからである。

27❷わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。❸わたしは彼ら（→わたしの羊）を知っており、❹彼らはわたしに従う。

28❺わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。

29❻わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり（→別の写本では、「すべてのものを与えて下さったこの方は偉大であり」）、だれも父の手から奪うことはできない。

30❼わたしと父とは一つである（→イエスの神性宣言）。」

31 ユダヤ人たちは、イエスを（冒瀆[冒流]罪として）石で打ち殺そうとして、また石を取り上げた。

→律法に従わず、共同体の神聖を脅かし、神の民の脅威となると判断された者に対し、共同体全体で石を投げ、打ち殺し葬った。

32 すると、イエスは（冷静に）言われた。

「わたしは、父が与えてくださった多くの善い業をあなたたちに示した。その中のどの業のために、石で打ち殺そうとするのか。」

33 ユダヤ人たちは答えた。

「善い業のことで、石で打ち殺すのではない。神を冒瀆したからだ。あなたは、人間なのに、自分を神とし（神を冒瀆し）ているからだ。」

→ユダヤ人指導者たちはイエスが神であることを主張したので非難した。指導者たちはイエスを神ではなく、人間に過ぎないと思っていたので、死刑に相当する神への背信（冒瀆）を犯していると言った。

34 そこで、イエスは言われた。

「あなたたちの律法に、『わたしは言う。あなたたちは神々（→gods：ヘブライ語「エロヒム」＝「神」または「神々」）である』と書いてある（→書かれている）（→詩編 82：6）ではないか。 אלהים

→（リビング・バイブル）「あなたがたの律法には、『わたしは言った。「あなたがたは神々だ」』（詩篇 82：6）と書いてあるではありませんか。

→（詩編 82：6）わたしは言った／「あなたたちは神々なのか／皆、いと高き方の子らなのか」と。

**重要**「神々」は、神の代理人として裁きを行う人たちで、神の言葉（知恵の言葉と知識の言葉）が超自然的に彼らに与えられました（人に神性が宿っているという意味ではない）。かつてイスラエルの士師たちは神々（エロヒム）と呼ばれ、イスラエルの神は、御言葉と神の霊を通して、士師たちに閃きを与えられました。神ご自身が、彼らの中で彼らを通して民を裁かれたので、神の代理人（代表者）たちはこの名誉ある称号「神々」を与えられました。彼らは崇拜されるべき対象という意味での「神々」ではなく、神の權威の下で語り、裁きを行うという意味で「神々」と呼ばれました。→次節（35a 節）

→ユダヤ人たちは、律法（モーセ五書：「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」）を与えられていることを誇りとしたが、ここでの「律法」は旧約聖書全体を指している。

35 神の言葉を受けた（→聖書協会共同訳：神の言葉を託された）人たちが、『神々』と言われている（→回復訳：神の言が臨んだ人たちのことを、『彼らは神々である』と彼は言われた）。そして、聖書が廃れることはありえない。

36 それなら、父から聖なる者とされて世に遣わされたわたしが、『わたしは神の子である』と言ったからとて、どうして『神を冒瀆している』と言うのか。

37 もし、わたしが父の業を行っていないのであれば、わたしを信じなくてもよい。

38 しかし、行っているのであれば、わたしを信じなくても、その業を信じなさい。そうすれば、父がわたしの内におられ、わたしが父の内にいる（→イエスの神性宣言）ことを、あなたたちは知り、また悟るだろう。」

39 そこで、ユダヤ人たちはまたイエスを捕らえようとしたが、イエスは彼らの手を逃れて、去って行かれた。

→逃れた方法は記されていない（そんなことは重要な問題ではない）。

→逃れた理由（重要）は、「まだ時が来ていない」（ヨハネによる福音書 7：8）からである。

→聖書にある「イエスを捕らえようとした」場面⇒マタイ 21：46、マルコ 12：12、ヨハネ 7：30

### 【参考】石打ち

下半身を生き埋めにして、身動きが取れない状態の罪人に対し、大勢の者が投石（人が即死しないように、握り拳程度の大きさの石を用いる）、死に至らしめる処刑法で、処刑の中でも最も苦痛が伴うとされる。古代オリエント世界においては一般的な処刑方法であったが、残酷なため、現在ではほとんど行われていない。しかし、イランや北部アフリカなどのイスラム教国では未だにこの処刑方法を採用している地域も存在し、人権擁護団体などによる批判の対象になっている。

（出典、参考：ウィキペディア「石打ち」）

→新約聖書に登場する「石打ち」刑



タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 9 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	21:35 だが、農夫たちはこの僕たちを捕まえ、一人を袋だたきにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。	
S マタイによる福音書	23:37 「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。	
S ルカによる福音書	13:34 エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。	
S ヨハネによる福音書	8:5 こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか。」	
S ヨハネによる福音書	10:31 ユダヤ人たちは、イエスを石で打ち殺そうとして、また石を取り上げた。	
S ヨハネによる福音書	10:32 すると、イエスは言われた。「わたしは、父が与えてくださった多くの善い業をあなたたちに示した。その中のどの業のために、石で打ち殺そうとするのか。」	
S ヨハネによる福音書	10:33 ユダヤ人たちは答えた。「善い業のことで、石で打ち殺すのではない。神を冒瀆したからだ。あなたは、人間なのに、自分を神としているからだ。」	
S ヨハネによる福音書	11:8 弟子たちは言った。「ラビ、ユダヤ人たちがついこの間もあなたを石で打ち殺そうとしたのに、またそこへ行かれるのですか。」	
S ヘブライ人への手紙	11:37 彼らは石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の皮を着て放浪し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、	

【参考】 聖書に登場する「内におり(内におられ)」「内にいる」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 19 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ヨハネによる福音書	6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。	
S ヨハネによる福音書	10:38 しかし、行っているのであれば、わたしを信じなくても、その業を信じなさい。そうすれば、父がわたしの内におられ、わたしが父の内にいることを、あなたたちは知り、また悟るだろう。」	
S ヨハネによる福音書	14:10 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。	
S ヨハネによる福音書	14:11 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。	
S ヨハネによる福音書	14:17 この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。	
S ヨハネによる福音書	14:20 かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。	
S ヨハネによる福音書	17:21 父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内におられるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内におられるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。	
S ヨハネによる福音書	17:23 わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。	
S ヨハネによる福音書	17:26 わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内におられるようになるためです。」	
S ローマの信徒への手紙	8:10 キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は義によって命となっています。	
S コリント信徒への手紙 I	14:25 心の内に隠していたことが明るみに出され、結局、ひれ伏して神を礼拝し、「まことに、神はあなたがたの内におられます」と皆の前で言い表すことになるでしょう。	
S コリント信徒への手紙 II	13:5 信仰を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。あなたがたは自分自身のことが分からないのですか。イエス・キリストがあなたがたの内におられることが、あなたがたが失格者なら別ですが……。	
S エフェソの信徒への手紙	4:6 すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上におられ、すべてのものを通して働き、すべてのものの中におられます。	
S フィリピの信徒への手紙	3:9 キリストの内におられる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。	
S コロサイの信徒への手紙	1:27 この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。	
S ペトロの手紙 I	1:11 預言者たちは、自分たちの内におられるキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光についてあらかじめ証しされた際、それがだれを、あるいは、どの時期を指すのか調べたのです。	
S ヨハネの手紙 I	2:5 しかし、神の言葉を守るなら、まことにその人の内には神の愛が実現しています。これによって、わたしたちが神の内におることが分かります。	
S ヨハネの手紙 I	4:4 子どもたちよ、あなたがたは神に属しており、偽預言者たちに打ち勝ちました。なぜなら、あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです。	
S ヨハネの手紙 I	5:20 わたしたちは知っています。神の子が来て、真実な方を知る力を与えてくださいました。わたしたちは真実な方の内に、その御子イエス・キリストの内におられるのです。この方こそ、真実の神、永遠の命です。	